

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

136号

2019年5月10日発行号

# その 1 冒険学校「こすけ冒険学校」

# 8.4~8.10(6 泊 7 日)

小管村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう!寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう!! ー緒に山の中や村の暮らしを探検する7日間です!

日程:8月4日(日)~8月10日(土)6泊7日

場 所:小菅村 木下キャンプ場

宿 泊:テント・ログハウス・野宿などで寝袋 対 象:小学校3年生~中学校3年生 25名

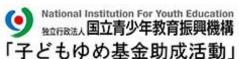
指導者・スタッフ:村の人々と東京学芸大学の大学生

参加費: 37,000 円 申込み: 6月17日(月)











# その2 冒険学校「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」 8.13~8.15

「小菅村をぜひ体験してみませんか?」 キャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまとご一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか? ご一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休みます。「自然」という名の遊び場は最高ですよー。今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して2泊3日のキャンプにすることも可能ですよ~!!

「やまめキャンプ」: 8/13~14 1 泊2日 「いわなキャンプ」: 8/14~15 1 泊2日

※ 連続での2泊3日もOKでゆっくり過ごすこともできます!

場 所:小菅村のいつものキャンプ場 宿 泊:テント・ログハウス・野宿など

対 象:小学校3年生以上は子どものみの参加可能。20名 申込み: 7月5日(金)まで、先着順です。

参加費:※組み合わせがいろいろあるので事務局までご相談ください。その場で会員になれます。

1. 親1人-子1人の参加で会員の場合: ¥21,000(非会員: ¥27,000) 2泊の場合は30,000円(非会員: ¥36,000)

2. 子ども 1 人の参加で会員の場合: ¥13,000(非会員: ¥15,000) 2 泊の場合は 21,000 円(非会員: ¥23,000)

3. 親1人-子2人の参加で会員の場合:¥31,000(非会員:¥37,000)2泊の場合は¥50,000(非会員:¥56,000)

4. 親2人-子1人の参加で会員の場合: ¥28,000(非会員: ¥34,000)2泊の場合は¥45,000(非会員: ¥51,000)







お子さんと一緒に沢登り

白糸の滝ツボヘダイブ!!

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名(ふりがな)、住所、電話番号、年齢(学年)をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております~♪

この事業は平成31年度 国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」の助成を受けて開催します。

# その 3「INCH(祭り)ライフ 2019」 9.21~22(1 泊か日帰り)

秋の一大イベント「INCH祭り」を開催します!ログハウスのあるキャンプ場で、「INCHライブ」を開催します!ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか!! 音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪ 毎年おなじみのバーテンダー「ひでやん」もバーを開きます!!





■日程9月21日(土) 16:00 開演 ~22日(日)日帰りもOK

■会場:山梨県小菅村いつものキャンプ場

■対象:子どものみの参加はできません。

■費用:日帰り 1,000円 宿泊 2,500円 食事付

■BAR はカンパ制です。

#### ■交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などはご相談ください。

■お申し込み: ライブの当日参加は OK です。楽器を 持ってお越しください。





# その4「タイ環境学習キャンプ」 8.10~8.19(9泊10日)

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の環境学習施設「パンダキャンプ」 を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生生物保護区は世界遺産であり、観光客は もとより、地元の方でも許可がなければ入れません。野生の牛、鹿、孔雀、サイチョウなどの貴重な野 生動物を観察します。また、カレン族やラオ族などの少数民族の部落を訪問し、彼らの文化を学習しま す。恒例の現地教員や子供達とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコク と少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか?通訳、ガイドも同行し、現地のラジ ャバト大学との連携もありますので安心してご参加ください。

日程:8/10(土)~19日(月) 対象:高校生~一般(中学生以下は要相談)

参加費: 会員 155,000 円 非会員 165,000 円 ※航空券と現地での費用が含まれています。 申込み: 6月7日(金)締め切りです。出発前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を!

# 「タイ環境学習キャンプ」特集~はじまってから 20 年の

(前回からの続きです。タイに興味を持った方は夏のタイ環境学 習キャンプにぜひぜひお申し込みください!!)

パンダキャンプに戻り、今度はミツバチの話を聞 く。実は、シリポンさんは私たちがここに来る2日 前、宿泊施設の壁に着いたミツバチの巣を巣箱に入 れようとして、200匹ほどのハチに刺され、意識 を失い緊急入院したという。その場所へ案内してく れた。

夕方3人のマッサージの予約が取れないので、い つも行く病院と違ったところを当たってみるため にバーンライの町に出た。ちょうど娘のパンダを迎 えに行ったボータンさんと一緒になった。マッサー ジは3人一緒にできないので、もう一度病院を当た ることになった。町に出て来たついでに夕食を食べ ることになった。ラーメン屋に入った。



本当はカンチャナブリーで大変だったキー、イェン の二人を休ませる配慮だった。パンダキャンプに戻 ってから、シリポンさんが勧めるコーヒーを飲んだ。 以前電話でおいしいおいしいと言っていたやつだ。 コーヒーにハリナシバチの花粉を入れ、ハチミツと マナーオの汁を入れる。悪くはないが、別にコーヒ ーにいれなくてもいいとゴミさんが言っていた。み んな疲れていたので、この日はいつもより早くバン

ガローに戻った。



#### 8月15日

朝、ゴメさんが対岸のほうで鳥を見ていたので、ポンティップと一緒に川に架かっている竹の橋を渡って合流した。便所の前でチメドリ(Babbler)を追って、いい写真は撮れなかったが一段落したとき、ゴメさんがたった今写したという写真を見せてくれた。びっくりした。ミナミヤイロチョウ(Blue-winged Pitta)だった。



ここ何年か、シリポンさんから、パンダキャンプに 繁殖にきていると聞いていたし、昨年は放棄された 巣を見せてもらった。見たいものだと思っていると 広場状の背丈の低い草むらの中に、ミミズをくわえ ている姿が見えた。餌探しに夢中になっているので、 私たちの姿を見てすぐに逃げることはなかった。そ れで、まだ技術が伴わないゴメさんの最新カメラも 威力を発揮したようだ。しかしこんな時に、あとの 二人は何をしているのだ。行って呼んできたが、「探 鳥は何時いかなる時でも気を抜いてはいけない」と いう厳しさが欠如しているように思う。反省しても らいたい。しかし早朝から縁起のいいことが起こっ たので、今日のワークショップはうまくいくと思っ た。





午前中は小学4年生30人ほどが対象で、ゴメさんが講師になりポンティップが通訳、午後は地元の養蜂に関心のある人8人が対象で、シリポンさんとゴミさんが講師になり私が通訳をした。ゴメさんはいろいろな実験遊びをしたが、休憩をはさんでしたシャボン玉作りは大人気になった。ストローでのシャボン玉に飽き足らず、子供たちは手を上手に使って大きなシャボン玉を作り始めた。







また休憩時間に大窪さんがやった「おに」の遊びも 子どもたちには面白かったようだ。

屋食の後、主にファミリーフォレストの会員の人が来た。シリポンさんが特にハリナシバチのことについて話し、ファミリーフォレストの会長として、ハリナシバチの養蜂の経済的な利点についても話をした。



▲西洋ミツバチ(左)とハリナシバチの宝の入った巣、花粉

ゴミさんは日本での西洋ミツバチと日本ミツバチ の養蜂について話した。個人的には日本ミツバチの 養蜂に関心が持てた。ゴミさんの報告はよくできていて、取材も丁寧にしていたので、改めて敬意の念をもった。



二人の話が終わってから、シリポンさんの師匠当たる人から話があった。ファイルを用意し話された。そのファイルを見たゴメさんはよくできていると言って褒めていたが、ポンティップは辛辣で、話を聞いた後で自分の宣伝をしているだけだと言っていた。しかし、シリポンさんが外に作ったミツバチの巣を箱に入れようとして失敗した作業を難なく

やってのけたのにはさすがだとキャリアを認めて いた。



ワークショップが終わってから三人は病院での 予約が取れたので、2時間半のマッサージに行った。 大窪さんはこれを期待していたようで嬉々として はしゃいでいた。「これを待っとったんや」と。 私たちは水浴びをするために宿泊所に戻った。私は 少し仮眠してから、バンコクから持ってきた川崎桃 太「フロイスの見た戦国日本」を読んでいた。8時 半過ぎによかったと3人が返ってきた。それから遅 い夕食になった。あすはパンダキャンプに多くの訪 問者があるので、その用意のためにシリポンさんは 先に失礼したいと言ってきたので、私たちも結構疲 れているので寝床に戻ることにした。

#### 8月16日

朝は全員昨日ヤイロチョウをみたところに集まって鳥を探したが、影も形もなかった。口にくわえていたミミズの量からして、ヒナは一匹のはずはないと思っていたので、餌探しをやめるようなことはなく、今日は餌場を変えたのだろうと思った。

朝ごはんを食べていたら、ぞろぞろと訪問客がやってきていた。ファミリー・フォレストに関してシリポンさんの話を聞きに来た人たちだ。ラヨーンとカラシンから50名ほど来ると聞いていた。シリポンさんから顔出しをしてほしいと頼まれていたので私ら5人、それぞれ挨拶をした。



今日の私らの予定は昼から「プー・ワイ」洞窟に行くことになっていた。ただ、ポンティップはあす大学で会議があるのでバンコクに戻らなければならない。例年のようにスパンブリーのダーン・チャーンまで送ってくれるものがいないので、バーンライからバスでスパンブリーの町まで行き、そこから乗り換えてバンコクに帰るといっていた。

今日の昼飯は訪問客の分も作るというので、ノーイさんの娘さんも応援に来ていた。昼が終わって、訪問客はバーンライの名所を巡るので、シリポンさんが付き合ったようだ。私たちはボータンさんの運転で先に洞窟まで連れて行ってもらった。その後ボータンさんはポンティップをバスターミナルまで運んで、英語を教えに中高学校へ行った。大窪さん以外この洞窟は3回目になるので、懐中電灯があれば何とかなるだろうと思っていたが、どうにもならなかった。入口から入ってすぐに道を見失ってしまった。わからないので行けそうなところを辿っていると、出口に出てしまった。



「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」。でもこの洞窟にすむ9種のコウモリのうち2種のコウモリの写真を鮮明に撮ることができたのは不幸中の幸いだった。3時過ぎには洞窟の外に出て、辺りの茂みで虫やトカゲなどの写真を撮りながらボータンさんが迎えに来るのを待っていた。約束の時間はとっくに過ぎているのに、ボータンさんは来なかった。この時再び「幸い」がやってきた。Tortoise Beetle(羽が透明なカメの甲羅のような形をした甲虫。例えばテントウムシやハムシのような姿)と呼んでいる虫の写真が撮れたのである。ずいぶん小さかったが、後日私の持っている「虫ハンドブック」で調べるとよく似た奴の体長が8-13ミリになっていたので合致していると思う。



この後、新人が必ず行かなければならない寺に準ずる寺へ大窪さんが参拝なされた。バーンライの人間になるための通過儀礼のようなものだ。そして今日は木曜日。定期市のある日なのでその場所へ連れて行ってもらった。ゴミ・ゴメは相変わらず昆虫のから揚げにたかっていたが、一方、この前、筏の上で食べた「仙人の桃」という果物を熱い視線で探し回った。しかし、見つからなかった。味はイモのようとも、カボチャのようともいえたが、なかなかいける味だったのだ。これも後日ポンティップが調べたらアンデス原産になっていた。



市に到着する前だったか、シリポンさんから電話があって、ヤイロチョウの親がいなくなりヒナが食堂のほうでうろうろしているので、猫に捕まる可能性もあり保護したと言ってきた。パンダキャンプに帰ると、簡易の檻にヒナが一匹ピーピーと大きな声で鳴いていた。しばらくしてヒナ用の餌を買いに行っていたシリポンさんが戻ってきた。私たちは放すべきだと訴えたが、今日は多くの人がヒナの潜んでいる辺りに入り込み親は驚いたのか行方になっていること、ヒナを放っておくと危険なのでこのまま飼うようなことを言う。そしてヒナをつかみ、檻から出して買ってきたカイコのさなぎを与えるとヒナは一気に飲み込んだので、ちょっと驚いた。結構ものおじしていないのだ。



しかし、ヒナがそれなりに育っているなら親は簡単に捨てるはずはないし、この前集めていたミミズの量からしてヒナは一羽だけではない筈なので、どこかに避難しているだけで必ず帰ってくると言ったら、シリポンさんは手で握っていたヒナをパッと放した。ヒナは5,6メートルほど飛んで茂みに入り込んだ。その後日が暮れるまでヒナは鳴き続けていたので、本当に親鳥が帰ってくるのか不安だった。夕方からはバーンライのバンド「スム・カオ・レーン」が来ることになっている。ボータンさんもフィリピン人の若い女の英語の先生を5人連れてきた。先に夕食を済まして、広場兼駐車場にテーブルといすを並べ、さっそく歌を聴き出した。既成の歌を歌うが、オリジナルも歌う。カラワンやカラバオの影響を受けているが、独自の音楽である。





ちょっと雨が降ってきたので食堂のほうへ場所を 移す。フィリピンのグループが歌う。日本のグルー プが歌う。そしてゴメさんの舞台になった。「イエ ス・マン ブルース」はバーンライの一部で非常に 有名になっているが、今回目を引いたのはハーモニ カ演奏だった。セントルイスブルース。伴奏をした スム・カオ・レーンとも息がぴったりで、老後の生 活場所が決まったようなものだった。私は迷わず 「サーラウィン河」をリクエストした。いい歌であ る。この夜、寝床に戻ったのは 11 時半ごろになっ ていた。



#### 8月17日

寝床の中でもヒナの親を呼ぶ声が聞こえた。私たちは朝8時にバーンライを出発することになっているので、シリポンさんにはもし親が帰らなかったら、今度こそ捕まえて飼ってほしいということしか言えなかった。

朝ごはんのおかずの一つに「パム」が出た。ミジンコ浮草というもので、バンコクではあまり見かけないものだ。スープに入れたり、軽くいためたりして食べるのだ。昨年ボータンさんにもらって、水槽に入れ花が咲くのだったらみてみたいと思っていたが、あまりにも小さいのでよくわからなかった。引っ越しも無事やり過ごしたが、だんだん少なくなって最後は水槽をひっくり返してしまった。



▲ ホ世話になったパンダキャンプのみんなで 宿泊していたバンガローの前で (左がボータンさん。シリポンさんの典さん。右から4番目が娘さんのパンダちゃん。)

ほぼ時間通りにバンが来た。ボータンさんとパンダが来ていて全員お土産を貰った。ゴミ・ゴメ・私の三人はパンダが描いた肖像画ももらった。私の場合はポンティップと一緒に描いてあった。とてもうれしい。私はパンダをごく小さい時から知っているが、大きくなったものだ。バンにはボータンさんとパンダも乗った。まず最初にカンペンセーンにあるカセサート大学へ向かった。ここでシリポン・ボータン夫婦の息子デンに会うのだ。デンは大学の2年生で、昆虫を専攻している。いま大学にヒマラヤハゲワシ(Himalayan Griffon)が保護されていて、

私たちがこの鳥を見れるように話をつけてくれた のだ。





行ったところは猛禽類の診療所で、いろいろなワシ・タカ、フクロウ類が治療され療養生活を送っていた。ここで獣医さんに話を聞いたが、肝心のハゲワシがどうしてこの施設にいるのかその経緯について質問するのを忘れてしまった。この後、デンもバンに乗ってプラナコーンへ向かった。明日パンダキャンプは忙しいらしいので、手伝いのために家へ帰るのだろう。シーナカリンダム湖で採集した昆虫、同定してほしいとデンに頼んだのでいつか結果が

#### 分かるだろう。

3人がバンでウタイタニーに帰っていってから、シリワット先生が来られた。私たちは先生に小さな喫茶店に誘ってもらい、今回のウタイタニーでの話をしたり、先生が住んでおられるロッブリー分校の長引く停電の話などを聞いた。ゴミ・ゴメ・大窪の三人はまだここで2泊するのだから、またバーンプーへでも誘うつもりで私は家に向かった。



▲ラジャバトプラナコーン大学のシリワット先生(中央)

小菅村にも来ている。このあと夕食をご馳走になった。

シリポンさんから電話で、行方をくらませていたミナミヤイロチョウの母親、姿を現したという。これでヒナも私らも一安心である。

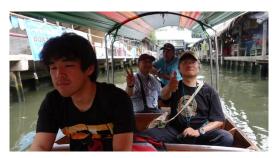
#### ※8月27日付けより抜粋

5時ごろポンティップが帰ってきて、デンからメールが 来ているという。この前道程を頼んだ種類わかったのだ。 大小同じ種で Veliidae だという。名前がわかったのでイン ターネットで調べてみると Veliidae はカタビロアメンボ科 のことで、日本には3亜科いるそうだ。

※2 若林さんは帰宅したがゴミ・ゴメ・大窪の3人はシリワットさんに夕食に誘われ美味しい中華料理店に連れて行ってもらった。その後シリワットさんの車でチナタッタさんの待つノイジープレイスへ送ってもらった。おいしいビールとショーを見てバンコクの夜を楽しんだ。



翌8月18日はチナタッタさんの案内でゴミ・ゴメ・大窪の3人は午前中水上マーケットへ行き、



午後は恒例のチャトチャのウイークエンドマーケットへ。そして夜は日本からやってきた豊田勇造ライブへ。チナタッタさんと今回で3回目の参加になる。



三晩音楽三昧であった。

#### 8月19日

今日は3人が日本へ飛び立つ前の時間を使って、 バーン・プーへ行った。8時にプラナコーンのホテ ルに迎えに行き、9時半ごろには着くことができた。 去年ゴメさんを案内して喜ばれたので、今年もバー ン・プーを選んだ。空は曇りがちでたまに時雨れて くるが、ひどくならなかったのでよかった。まず桟 橋を歩いてみるが、水が満ちてきていた。これでは あまり鳥は見ることはできないので、後背湿地のほ うへ行った。この辺りのマングローブ林もよく繁茂 している。勉強するにはもってこいだろうが、難点 は蚊の群れである。待ってましたとばかりにたかっ てくる。探鳥も手で払いながらするしかなかった。 時期が時期だけに多くの鳥は期待できなかったが、 鳥見小屋から遠くのほうにインドトキコウの群れ が見えたので、そっちのほうに近寄ってみた。マン グローブ林がぎっしり生えているのでなかなか姿 を捉えることができなかったが、一部探鳥のためか 伐採してあったので、そこからはよく見えた。しか し鳥からもよく見えるので、鳥は落ち着かなくなり、 飛び立ってしまった。インドトキコウから少し離れ たところに2羽のクロトキがいた。

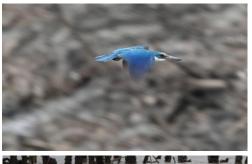


これが久しぶりの、タイで初めて見る鳥になった (日本で一度見たことがある)。



その後マングローブ林が見渡せる塔に登り、海岸線に出た。海の近くになれば蚊の襲撃も和らぐかと思ったが、そうは問屋がおろさなかった。ここにも鳥見小屋があったので中に入ると、打ち寄せる波の

中に 10 羽ほどのインドトキコウが何かを漁っていた。結構近くに見れたので、みんないい写真が撮れただろう。





その後、桟橋を渡って軍のレストランで昼を食べる。



次に行ったのはバーン・プリーのオールドマーケット。150年の古さを誇る水上マーケットである。 案内書をもらったポンティップが行きたいと言っていた涅槃仏は結局車を止めたバーン・プリー・ヤイクラーンという寺にあった。ワット・ポーほどはなかったが、かなり大きな仏像だった。帰りは高速を使ったので3時過ぎにはプラナコーンに着いたが、連日のビールの飲みすぎ疲れか、後部座席で3人ともたわいなく眠っていた。これで3人とお別れになったが、シーナカリンダム湖での筏暮らし、バーンライでのワークショップを含めて、いい時間が持てたと思う。



# 『藤農便り』 第17号

#### 宮本茶園 ヘルミッショネルズ宮本

3月になると暖かな日が続き、藤野でもお彼岸中に桜が開花しました。彼岸明けから4月上旬は低温で満開期間が長く、バイト先の小学校では入学式の後、校庭に咲き誇る桜の前でほぼえましく記念写真を撮る家族が多く見られました。なんと4月10日に雪が降り、雪見と花見を併せて堪能できる珍しい機会がありました。14日は風が強く、畑仕事を終え家路に急ぐ軽トラが走る道路では夕闇に無数の花びらが舞う幻想的な光景に遭遇、今年は3週間にわたって桜を楽しみました。農作業が忙しい季節、毎日暗くなるまで佐野川で畑仕事をしています。

#### ・冒険探検部へのエール

2月INCH総会で冒険探検部現役部員は4名、新入部員がいなければ休部になるかもしれないとの報告がありました。2015年秋に小菅で開催された自然文化誌研究会冒険探検部創設40周年記念第35回環境学習セミナーでは、全国各地から集まったOB・OGを頼もしい現役部員たちがもてなしてくれたので驚きました。1975年から刻まれる長い部歴史では創設部員が卒業して部室が無人になり、再建後も片手で数えられるほどの部員で活動していた時代が長かったので心配していませんが、現役部員の新入生勧誘にエールを送ります。

このナマステを読まれた新入生の皆さん、特に学芸大のクラスや入部したサークルの明るく健康的な雰囲気になじめない人は、引きこもらずにサークル棟冒険探検部室の扉をたたいてください。部室にある 11 冊の冒探王を読めば、高校時代には体験しえなかった異次元の世界を知ることができるでしょう。今は無き旧陸軍兵舎部室で仲間と過ごした珠玉の時間は、61 歳になった今も私の宝物です。卒業研究で農場に築いた炭窯で炭を焼き、小金井祭にシシカバブーの屋台を出したのが 1985 年、以来小金井祭のシシカバブーは冒険探検部の伝統になっています。この伝統がずっと続く事を OB の一人として切に願っています。

#### • 春の茶仕事

2 月下旬から枯れ草を取り終わった新しい茶畑の整備作業をしました。2 人用機械が使えるように畑の両端にある茶樹を伐採し、スソ刈りをしたのですがバイトの合間に作業をするので終わったのはお彼岸過ぎでした。畝間のツルバラとの闘いは今なお続き、昨年の敗北を繰り返さないよう全力で取り組んでいます。



3 月になると施肥や整枝作業が始まり、夕方真っ暗になるまで作業をする日がめっきり多くなりました。 20kg の肥料袋を担いで斜面を登り、袋が空になるとまた運ぶ作業の繰り返しが2週間続きました。藤野茶業部は秋整枝のみで収穫を迎える農家が多かったのですが、木村普及員の指導で今年は春整枝に取り組みました。共同作業が定着して短期間で整枝を終わらす事ができ、作業後は黙々と茶樹に付いている切葉・落葉等のゴミ取りをしています。春うらら柔らかな日差しの下、富士山と桜を眺めて行う作業はいつもながら至福の時間です。



藤野茶業部の活動で、3月6日昨夏に整枝を請け 負った荒廃茶園の整備作業に取り組みました。皆が 管理機械を持ち寄って枯れ草を片付け、剪定バサミ で茶樹の株元に出ている篠竹を切り落としました。 茶園がきれいになると、肥料をたっぷり施して作業 終了です。作業前・作業後を比べてください。私た ちのささやかな取り組みが荒廃茶園再生につながる よう、今後も整備作業を継続していきたいと思いま す。





#### • ちーむゴエモンの活動 2019 (醤油搾り)

昨年1月にゴエモン金剛山チームで仕込んだ醤油は、日連の尾崎さん宅で毎月1回もろみをていねいにかき混ぜて管理しました。樽の中でゆっくり熟成し産膜酵母もほとんど発生せず、黒光りしたもろみはこうばしい香りを漂わせるようになりました。ちーむゴエモンは各地域のチームがそれぞれに醤油作りに取り組んでいて、醤油搾りをヤギ苑で行っています。金剛山チームは2月23日に搾り作業を行いました。

朝 7 時から湯を沸かしながら作業準備をし、搾り 袋にもろみを詰めて時間をかけて少しずつ醬油を搾っていきます。搾り機の口から流れ出る出来立ての 醬油で、高橋さんが郷土料理の大根アワ漬けを食べ させてくださいました。生醬油に薄切りにした大根 を漬けた簡単な料理なのですが、醬油作りをする者 しか味わえない貴重な体験です。生醤油は火入れを してタンクに移して澱を沈めた後に瓶詰し、メンバ ーで分けました。私の醬油搾り粕と醬油は、孫娘は じめ友人やお世話になっている方たちへ感謝の気持 ちを込めてお届けしました。





#### 野草の天ぷらとお茶摘みの会 2019

毎年4月29日はINCH恒例の野草の天ぷらとお茶摘みの会、今年は天皇アキヒトの退位とナルヒトの天皇即位の日が祝日にされ(5月1日はメーデ

ー、労働者の祝日です)、大型連休3日目です。2月総会で日程を検討したのですが、連休中は小菅と藤野はそれぞれの仕事が忙しいだろうという事で、4月21日開催になりました。

彼岸明けから低温で佐野川の茶の新芽は4月半ば になっても固いままです。小金井市は藤野より暖か ですが例年より 1 週間以上早い日程で、新芽がどれ だけ伸びているかとても心配でした。絶好の茶摘み 日和の当日、子どもを含め 50 名以上の方が参加し てくださいました。今年は藤野観光協会から里山体 験ツアーや陶器市等の案内パンフレットをいただき、 参加者に藤野観光や佐野川茶の取り組みを紹介しま した。環境教育研究センターの茶畑は私の畑より葉 が生長していますが、摘採基準の一芯三葉には程遠 い大きさです。参加者は高級茶に使うような小さな 新芽をていねいに摘み、1時間で 1.3kgの茶葉が 収穫できました。セイロで蒸した葉は焙炉で揉んで 荒茶に仕上げますが、量が少なく葉が小さいためか 例年汗だくで3時間以上かかる作業が1時間半ほど で終わりました。試飲にたっぷり時間をとることが でき、皆さん出来立て手作り新茶をゆったり味わっ ていました。

私の拙い手ほどきで手揉み茶に興味をもたれた方は、佐野川にお越しいただき和田の里体験センターで開催される「和田の里みちくさの会」の茶摘み体験をお楽しみいただきたいと思います。





#### • 雑穀街道普及会

冬に土寄せ・麦踏みした雑穀畑は、播種が遅かっ たため近隣の麦畑と比べると小さいのですが順調に 生育しています。近所の方から庭木の剪定枝を大量 にいただき、時間を見つけては軽トラで運んで雨降 り前日に燃やしています。山火事にならないようオ キが消えるまでのんびり火を見ていると、卒業研究 の炭焼きでご指導いただいた炭博士の岸本定吉先生 を思い出します。校庭に植えられた樹木の剪定枝を 使って学校で炭焼きをしようという思い付きのテー マでしたが、ていねいに炭焼きを教えてくださいま した。窯に詰めた剪定枝を燃やしながら窯口や煙突 を開閉して空気を調整し、煙の色や温度を測って良 質の炭を焼くコツを徹夜で伝えていただきました。 岸本先生や木俣師から学んだ仕事に対する姿勢、体 が動く限り守りたいと夕闇に消える赤いオキに思う のでした。

燃やした灰を畑にまいては耕し、雑穀・大豆の植付け準備をしています。木俣師から見本園用に昨年収穫した以外の雑穀種子をいただきました。茶収穫が終わったら植付作業、興味ある方は上岩の雑穀畑にお越しください。





\*興味ある方はヘル宮本までご連絡ください。 Ta: 090-2205-8476 (宮本透)

# 『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その7

# ニュージーランドで湯治(その1)

### 佐伯 順弘(岐阜県)

#### DAY1 (O8AUG2O13) 岐阜→成田→機内泊

台湾から帰国して、新しい勤務地に配属された。 森に囲まれた水のきれいな場所だ。林業が盛んで、 人と自然との親和度が高いと感じる。

そこで、環境教育を実践的にやることができるとは 幸せなことだ。しかし、1つ心配なことがあった。 ほんの数年の海外生活によって、自分が奴隷ではな く、労働者であることに気づいてしまった。いくら 特別手当をもらっているからと言って無制限に超 過勤務を強制されることに耐えられなくなってし まったのだ。(超過勤務の時給は約70円である。) 若手の頃、給料分の仕事すらできていないと感じた 自分が自主的な労働時間の延長により、給料分の仕 事をやりきっていたのはやむを得なかったのだと 今でも思う。修行の割合があまりにも大きかったか らである。しかし、給料分は十分仕事ができるよう になった今、自ら奴隷働きに進むことに対して疑問 を持たないわけにはいかなくなった。この状態は、 今の日本において非常に居心地が悪い。滅私奉公、 身を粉にして働く、この勤勉さが日本人の美徳であ る以上、奴隷働きを拒否する思想はとても危険だ。 多くの人々には受け入れられないだろう。あの人気 ドラマ「〇町〇〇ット」にさえ、定時で帰る社員に 対して非難するシーンが出てきたではないか。その とき、日本人の大部分が労働者として当然の権利を 行使しようとする社員に対して、非難の声を上げる ○内くんに賛同したのではないか。人それぞれの事 情があり、仕事のために生きているのではなく、自 分が生きるために仕事があるのだ。それを労働者は 忘れてはいけない。そして時給意識を高め、より効 率的に最大限の成果を出すように仕事をすべきな のだ。そんなわけで、この悶々とした日々の中で精 神崩壊を防ぐためには「旅」が必要だった。本来の 自由な自分は旅の中にしかないのかもしれない。年 1回ないし2回の旅によってなんとか精神崩壊を 防いでいると断言できるのである。

まるで宮本さんの話のようになってきたが、

この話は旅行の話である。単なる物見遊山のゆるい 内容だった。今回の旅は数年来の旅仲間 K との二 人道中である。4月からなんとなく、方向を考え、 航空券、現地状況、宿泊施設を調べて、7月1日に は航空券確保。その後、宿泊施設も確保した。学生 時代は行き当たりばったりで、宿泊先を決めるなど 愚の骨頂とバカにしていたが、とにかく時間と体力 が有り余っている学生ならば一日宿探しに費やし てもいいが、短い休暇しか取れない身では時間を有 効に使うことが求められるのでサラリーを得るよ うになってからは行き当たりばったりはやめた。し かし、宿泊は相変わらずユースホステル中心である。 0530 楽しみで早く起きてしまった。出発日の朝 からパッキングである。海外旅行、キャンプなどの 作戦行動において海兵隊並みに即応体制ができて いるので出発3時間前からのんびりはじめる準備 で十分間に合うのである。これも前回の作戦が終わ ってから装備点検、整備を怠らない冒険探検部時代 からの習慣である。(ちなみにそういう習性を持っ ている部員はきわめて稀ではあった。)

1100 自宅発。途中の駅で K と合流。今回は成田発なので、新幹線で移動である。JR 高山線が遅れるとの情報が入った。最初から計画破綻かと思われたが、なんとか進みそうだ。中部国際はなんだかんだ言ってそれほど便利ではない。

1630 成田着。計画通りすぐチェックイン。両替の場所を比較検討するのも面倒だったので、空港でさっさと済ませることにした。状況によって、街中の両替屋の方がいい場合もあるのだが、学生ほど金には困っていない。俸給をいただくものの強みである。JP¥49740がNZ\$580となった。NZ\$10でJP¥850と頭に入れる。これをしておかないと、金銭感覚が狂う。

ラウンジでビールを飲んだり、メモを取ったりした 後、出国審査を経て機内へ。

1930 テイクオフ。この飛び立つときの加速が気持ちいい。 気持ちよくてつい寝てしまうくらいだ。 成田からニュージーランドのオークランドまで

ナマステ 136号

10時間くらいのフライト。



夕食を食べて、映画を観て寝る。



#### DAY2 (09AUG2013) オークランド→

そして、朝食を食べたら、もう到着。日本時間 0400。約9時間45分のフライトは航空機好き としてはあっという間であった。

日本時間 0515=ニュージーランド時間 0815 \*\*\*\*ニュージーランド時間に変更\*\*\*\*

O815 オークランド着。寒い。南半球なので、日本の夏休みに旅行すれば季節は冬だとわかっていたが、それでも寒い。避暑に来てはみたが、あまりにも寒すぎてびっくりである。ともかく空港を探索し、すぐ市内行きのバス乗り場を発見。NZ\$16。バスもすぐ来て、市内へ。

1030 オークランド市内から Whangarei ファンガレイ行きのバスを首尾よく発見し、さっそく乗り込む。ファンガレイには特に用事はないが、そこから Kauri Coast カウリコーストへ向かうための中継地として1泊する。

バスで惰眠をむさぼっているうちに、中継地点のファンガレイに到着。それにしても日本以外の国のバスは臭くないのか。日本のバスは基本的に独特のバス臭がする。幼少のころそれが乗り物酔いの引き金になったものだ。社会見学でバスのドアが開いてその悪臭が押し寄せた瞬間、バスは1ミリも動いていないのに既に乗り物酔いである。のど元まで朝食が上がって来たものだ。ところがニュージーランド

のバスはどうだ。まったくそれを感じさせないではないか。海外旅行をするようになってから安くて快適で移動している実感のあるバスが好きになっていた。ファンガレイの街に到着し、小さな地図を頼りに街を探索しつつ、徒歩で宿に向かう。

1400 今夜の宿泊施設であるバックパッカーズホステル「バンクダウンロッジ」に到着。



チェックイン。2 人部屋で 1 人 30×2+デポジット 20。荷物を置いて、日が暮れないうちに更に街の探索に出かける。売店でパンを買う。



このホステルは平屋建てなのに多くの部屋とその近くにキッチンを兼ねたラウンジがあった。玄関わきに管理人の老夫婦の部屋があり、ゲストルームは奥に。キッチン兼ラウンジには観光パンフレットやコーヒーがおいてあり、広くて快適だ。他にも宿泊客がいたが別のラウンジにいたようだ。それほどの運動量もなかったが、明日はロングドライブなので早々に寝た。

#### <u>DAY3 (10AUG2013)</u> ファンガレイ→

O8OO 若干、時差ボケか。(日本時間 O5OO) しかし、疲れてはいない。昨日買ったパンの残りとインスタントコーヒーで朝食を済ませ、レンタカーを受け取りに行く。もちろん、日本で予約してあったし、国際免許証も持ってきていた。レンタカーに乗り、まずはスーパーマーケットをさがす。当然のことながらすぐ発見。そこで水やスナックを買い、カウリコーストにあるワイポウア・カウリ・フォレス

トを目指す。カウリとは南太平洋に育つナンヨウスギの一種でとんでもない巨木に育つという。その樹木たちに会いに行くのだ。車は日本と同じ右ハンドルで左側通行なので運転に不安はない。もちろん、アメリカ、台湾では右側通行になれていたので、どちらであっても不安はない。天気は曇り空であるが、いかにも冬という感じでかえって落ち着いた感じだ。冬なのにしっとりとしている。



1200 水とスナックを摂取していたので、特に空腹感はない。目的地のワイポウア・カウリ・フォレストに到着。



巨木の森。特に大きなものには名前がついている。 このタネ・マフタは「森の君主」であるという解説 があった。とにかく、大きい。根を傷つけたりしな いように、遊歩道を外れてはならないとの注意書き があった。とにかく、大きい。遊歩道の制限もあり、 全体を写真に入れるのが困難だった。





このような巨木な何本もあって、それぞれに名前がついていた。

他にも、シダの一種であろうか、4メートル以上もある巨大な植物が多くあった。

巨大植物群に圧倒され、太古の森に来たような気になってしまった。



だた、この森も造船などに使われ伐採された結果、 20 世紀初頭までには当時の数パーセントが残されるだけになったそうだ。現在は遊歩道が整備され、 保護される対象となったものの復活させるには人間の寿命はあまりにも短い。

巨大生物(樹木)に圧倒されたまま、レンタカーで帰途に就いた。



どんよりとした曇り空の下、時間の感覚さえおかしくなっていた。レンタカーを返す時間が迫っていたのだが、そんなことも考えず、いろいろ寄り道をしながらカウリコーストからファンガレイまで戻ってきた。朝、水とスナックを買ったスーパーマーケットで夕食の材料を買い、ガソリンを満タンにしてレンタカーを返しにいった。既に事務所は閉まっていたが、「ここに鍵を入れとけ」という指示があった場所に鍵を入れた。割とアバウトで助かった。スーパーマーケットの袋を手に提げ、徒歩でホステルに戻る。

ちなみにレンタカー代は保険など込みで、終日使って約1万1000円だった、約300km走行して、ガソリンは約4400円でやや高い。ガソリン消費量は23.690Lだったので185.7円/Lということになる。ちなみに夕食用に買ったニュージーランドビーフは680gで700円であった。何にしても肉が安いということなので、ニュージーランドにいるうちは肉を積極的に食べようかと思った。

1800 宿に戻って、すぐ夕食の準備に取り掛かった。昼食をほぼポテチで済ませていたので、かなり空腹だった。メニューはステーキとパンとビールという大変簡単かつ素早いものに決めて、食糧を買っていた。素材の味を生かすため、フライパンで軽く焼いた。海外の肉は脂身が少なくて硬くなりやすいため、あまり焼いてはいけないと聞いたことがあった気がしたからだ。



ヨーグルトは明日の朝用。パンも少し食べるが、

基本明日の朝食用。写真にはないがサラダも買っている。常に栄養バランスを考えて食べないと体調を崩すことにつながりかねない。



なかなかおいしそうに焼けたではないか。約300gのステーキが約300円。うーん、さらにいいではないか。



次回は DAY4 (11AUG2013) ファンガレイ から温泉地であるロトルアへの旅である。(つづく)

#### 今回は編集の関係で最終ページを圧縮しました。ホームページに出てこない大事な情報を掲載します~!

#### 〇 事務局よりお知らせ

- •むらまつりキャンプ参加者の方にはDVDを同封しました。
- ・今年度の冒険学校等の参加費はトイレ完成(予定)のため、キャンプ場の使用料金を上乗せさせてもらっての額ということで値上げしていますので、ご承知おきください。

#### 〇 事務局の麗しき日々

- 佐伯さんは柔道部の顧問になり苦悩しているもよう。
- •佐々木さんは教員を引退し、のんびり暮らしているもよう。
- ・理事の亀井さんは定年退職して無職なもよう。
- はるちゃんのお母さんも退職したもよう。
- ・みなさまご安心を、青樹の勤労は続いるもよう。
- ・美苗さんが新たに本を出版したもよう。
- ・ 圭ちゃんの GW は 10 日間のアフリカ旅行だったもよう。
- ・翔くんは時流に乗って令和婚したもよう。
- むらまつりキャンプは、まふゆのキャンプより寒かったもよう。
- ・和田崚太朗さん、川見美鈴さんがスタッフデビューしたもよう。

ナシステ 136号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌 <発行日>2019 年 5 月 10 日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

〈発 行〉 特定非営利活動法人

## 自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History <事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165 • 090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

HP: <a href="http://www2.plala.or.jp/npo-inch/">http://www2.plala.or.jp/npo-inch/</a>